

[登録日]令和7年1月23日

松江市美保関町美保関355番地

本通り側外観



海側外観



ようへき
石の擁壁と階段



松の曲木を梁として使用

小屋組み

◆建築年代：大正元年（1912年）

◆構造：木造2階建

■概要

美保館別邸 大正館 柘榴は、大正元年（1912年）に建てられた木造2階建ての町家建築です。当初の所有者であった木谷家はかつて網元であったとされています。

平成29年に美保館の所有となった後に島根大学古民家改修プロジェクトとして改修が行われ、現在は1棟貸しの宿として利用されています。庭に樹齢70年の柘榴の木が植えられていたことから、その名が付けられました。

美保関に多く見られる切妻平入の町家の中でも、稀な間口が広い建物で、本通りに面して敷地間口いっぱいに主屋が建っています。海側には、石の擁壁と階段が残っており、往時の海岸線を示しています。小屋組は松の曲木を梁として使うことで2階の天井が高くなっており、狭い空間を有効利用する美保関特有の木材の使い方や大工技術をよく残しています。

美保関の歴史的景観に寄与する建造物であるとともに、美保関の人々の生活と海の間を語る重要な建造物です。

位置図



【市登録歴史的建造物】
美保館別邸 大正館 柘榴（旧木谷家）